

20 回ふれあいトーク (ハンディキャップがあっても暮らしやすいまちづくり) 会議記録

1、日 時 平成 25 年 11 月 27 日 (水) 午前 10 時 15 分から 11 時 30 分

2、場 所 ふれあい福祉センター 2 階 201・202 研修室

3、出席者 20 名

高岡市身体障害者協会、高岡市手をつなぐ育成会、高岡市地域精神障害者
家族の会あしつき家族会、かたかご苑、志貴野苑、あしつきの郷
市長、社会福祉課長、広報統計課長

4、会議次第

(1) 市長挨拶

(2) 出席者紹介

(3) 意見交換

.....

意見交換

参加者

- 高岡市スポーツコアに体育館、立野地区に野球場が建設されることになっている。スポーツ施設は身体障害者も利用することから、これからの建設に際しては、車椅子利用者や視覚障害者も移動しやすい観客席やスロープ、多目的トイレなどを整備してほしい。

参加者

- 個人情報について、協会として障害者の支援をしたくても、個人情報保護の観点から行政から情報が得られず、新たに障害者となった方の把握ができないなどの課題がある。他市でも同様の悩みを持っており、個人情報保護の課題として高岡市でも認識してほしい。

参加者

- 精神障害はコミュニケーション能力や情報処理能力に障害があり、当事者が考えていることを言葉で伝えることが難しい障害である。偏見や差別があり、脳の機能障害であることをぜひ皆さんに知ってもらいたい。

参加者

- 高岡駅が改装中で視覚障害のある人が利用しにくくなっている。改装前に設置されていた音響信号がなくなり、誘導ブロックを辿ると旧バスターミナル前の地下街へつながるが、ある日突然地下街の入口にロープが張られ通行できなくなった。改装に入る前には、市の担当部局から情報提供していくとの説明であったが、残念ながら徹底されていない。視覚障害者が安全に利用するための情報がなく困っており、情報提供などを徹底してもらいたい。
- 高岡駅東口から出る場合、目が見えれば利用できる万葉線電停前まで続くルートは、誘導ブロックがなく視覚障害者は利用できない。視覚障害者が一人で駅前に出るに

は、旧バスターミナルを通り、桜馬場通りの地下道を利用し、恵比寿通りの角に出るコースしかない。しかし、駅東口から出て、旧バスターミナル側の道路へ横断するには、音響信号がなく危険を伴いながら通ることになる。誘導ブロックにそって旧バスターミナル前まで行くと地下道入り口は利用できなくなっている。桜馬場通りの地下道には歩道の真ん中に階段があり、人通りもなく、異臭がし、大変印象が悪い。駅が完成するまでの我慢とは思いますが、視覚障害者にとっては日常でもあるので、聞いてもらいたい。

市長

- 障害をもつ皆さんに、日常や施設の利用の際に不自由を掛けていることは心苦しく思っている。皆さんの気づいた点や思いなど聴かせてほしい。
- スポーツコアの体育館や立野の野球場など、新高岡駅ができるまでに、新しい施設の建設に際してはエレベーターや点字ブロックの設置など、障害のある方が使いやすいように整備したいと考えている。できれば、完成前に見ていただき、障害のある方や、サポートする方の視点から、意見や情報をいただきたいと考えている。
- 個人情報について、市が持っている市民の情報をどう活用するかは悩ましい課題である。市役所の内部で情報を共有できれば便利だが、一方で市民の方が、自分の情報について、伝えた部署とは異なる部署に共有されることを不安に思う人もいる。支援の必要な方が増えていく中で、情報の取得方法や、支援者への情報提供方法など、市民の皆さんと相談しながら、納得していただける方法を考えていく必要がある。
- 保育所では発達障害などへの目配りを行っており、小学校へスムーズにつなげるよう教育委員会と福祉部局が連携して取り組んでいる。障害を早く見つけ、正しく対応することでコミュニケーションが取れるようになっていくと聞いている。精神障害への偏見については、行政や支援する人が障害についての正しい知識を周知してくることが大切であり、医療、福祉、環境づくりの面で、皆で考え、支えていきたい。
- 高岡駅周辺が工事中で利用者にご不便をおかけしている。工事の進行状況によって通行ルートが変わっており、自分が分かりづらいつと感じた点は随時関係部局に対応を指示しているが、視覚障害のある方にとって辛い状況であることは大変恐縮である。来年春に高岡駅ステーションビルが完成し、末広町方向には、高岡駅2階にある改札前からウイング・ウイング高岡に誘導するコースと地下道を通りウイング・ウイング高岡に行くコースができる。音響信号やエスコートゾーンなどを設置したい。利用しやすい施設整備について皆さんと相談しながら決めていきたいと考えており、万葉ロードを整備した際にも身体障害者協会の皆さんに現場を通行して確認していただいたが、新しい駅ができたときにも同様に協力をしていただき意見を聞かせていただきたい。

参加者

- 以前から作成されていたバリアフリーマップが古くなっているため、内容を更新し作ってほしい。

参加者

- 精神障害の分野は、福祉分野の中でも法整備などが遅れて整備されてきた。当事者が堂々と意見を言えるようになったのもごく最近である。障害者の声に耳を傾けてほしい。

参加者

- 精神障害の支援施設の利用者の声を代弁して話をしたい。精神障害者は、病気の症状や普段の人間関係など不安を抱えながら生活している。相談できる場所やちょっとした支えがあれば、仕事や生活ができるので、そういう場があってほしい、という声をよく聞く。病気を隠さずしっかり通院し、治療を受け、就職活動などをしてほしいという利用者の思いを、市の福祉行政に組み入れ支援などを図ってほしい。最近ではホームヘルプサービスなどを利用し、地域で単身で生活している人も多い。一人で日常生活をするなかで困っている人への支援や、仕事での悩みを一人で解決できない時に支援者が入ることで安心して働くことができるなど、小さいことの積み重ねが大切と考えている。

参加者

- 地域生活を支援している立場から話をしたい。グループホーム等を利用し地域で生活する知的障害者が増えてきて、障害に対する一般の方の理解も深まってきたように見えるが、実際にグループホーム等の施設を作る段階になると一般市民の方の理解が得られない場合がある。障害者への理解はすぐには深まらないと思うが、市民と自然に触れ合い理解を深めるようなしかけを考えていけないかと思っている。

参加者

- 地域活動支援センターを運営している。障害者は自分で移動することが難しく、家族の送迎や公共交通を利用している。事業所へ通いたくても、コミュニティバスが地域に通っていないかったり、タクシーや路線バスの料金が高等、外出しにくい環境にあるため、障害者の足について考えていかなければいけないと思っている。

参加者

- 高福レストランで働いているが、中田地区からは、路線バスの運行が少なく通勤が不便である。コミュニティバスを運行させてほしい。また、他市では市役所で知的障害者が働いていると聞く。知的障害者の採用をしてほしい。

参加者

- 中田地区に住んでいるが、公共交通の利用が不便である。障害者が家に閉じこもりきりにならないよう、イベントなどへの参加を促しているが、市の中心部のイベントに参加したくても、交通手段がないため参加できずにあきらめる人が多い。コミュニティバスや路線バスの運行状況を見てきたが、戸出方向へ向かうバスがなく、高岡中心部へ向かうバスについては1日合計14便しか運行していない。高校生が戸出や大門まで出るときには家族が送迎している。バスを運行してほしいという声は多い。

市長

- バリアフリーマップは以前から作成してきたが、現在は情報も変わってきていることから新たに作成していきたい。作成の途中過程で、市と皆さんの情報のやり取りにより共通認識が作られる効果もある。皆さんの意見を聴きながら作っていききたい。
- 精神障害のある方が困ったとき気軽に相談し解決できるような環境を作っていくことが大切と考える。相談の場所、時期、相談を受ける人等どんな内容がよいのか、具体的な課題を提示してほしい。また、健常者ができるちょっとした支えとしてどんなことができるのかを教えていただき、周知をしていきたい。
- 障害を持つ方は、地域の中に出かける際は、ご苦労が多いと思う。東京でコミュニティバスに乗った際、停留所でいつまでもバスが出発しないのを不思議に思っていると、運転手が手際よく車椅子の方の乗車の介助をしていた。印象的だったのは、周囲の乗客はごく当たり前のこととして、出発を待っていた点だった。ごく当たり前に受け入れられている雰囲気を感じ、嬉しく思った。皆が状況に応じて見守りながら、必要なときは支援するなど、健常者の理解が大切と考える。障害について理解を深めるための研修は今後も行っていきたい。障害者と自然に触れ合える場については、バザーや、施設訪問などこれまでもあったが、どういうものが良いかぜひ聴かせていただき、そういう場を作っていきたい。
- 地域の足としての交通手段は、足りないと思っている。一方、どの程度利用してもらえるかもバスが運行するためには重要であり、今ある公共交通機関を使ってほしいと思っている。新幹線の開業に向け、バス路線を見直しているところであり、中田地区については、射水市を通らず中心部に行くバスがあればよいなどの課題がある。バス会社に今日の話を伝え改善をしていきたい。
- 地域の交通手段について、交通事業者にとってビジネスとして成り立つには難しい地域もあるが、住民の皆様から地域が必要とするものをよく聞いていきたい。特に中田地域は福祉施設が多くあり、ひとつのモデルとしても検討していきたい。
- 障害者を支援する施設が各地域にバランス良くできていけばよいと考える。地域の理解を図る努力を行政も一緒に行っていきたい。

参加者

- 厚生労働省から自治体の福祉部局に貸与される日常生活用具の中に、横断歩道を渡る際、ボタンを押すと信号の歩行時間を長くする歩行時間延長信号機小型送信機がある。信号機に設置して使う装置であるが、その装置に対応している信号が設置されている箇所が少ない。利用頻度の高い場所には、この装置対応の信号機や音声対応信号機、LED使用信号機を設置してほしい。

参加者

- 精神障害について、正しい知識を予防的見地から中高生の授業に取り入れてもらいたい。精神の病気にかかる人が昔に比べて増えてきている。子供たちが大きくなり突然病気になった場合、本人や家族がどこに相談や受診に行けばよいか分からず困ることがあるため、正しい知識を身に付けてほしい。
- 障害者をサポートする専門職の人にも精神障害者に対する偏見がある。身体障害に

対しては献身的であっても、精神障害と聞いただけで偏見の目で見られることがある。ケアマネジャーの研修や包括支援センターの社会福祉士を対象とした精神障害についての研修をしてほしい。また、図書館に「みんなネット」という精神障害についての本を入れてほしい。

参加者

- ・ アパートに暮らす身体障害者から、アパートの室内や玄関の段差で移動が難しいとの声を聞く。バリアフリー対応のアパートがもっとあればよい。
- ・ 除雪について、車いすや歩行能力が十分でない方などは、積雪があると玄関から出ることができない。ケアネットや社会福祉協議会でも、除雪サービスを行っているが、十分に利用できない状況である。ひきこもり防止のためにも、一人でも玄関から出られるための充実したサービスがあればよい。

参加者

- ・ 社会福祉協議会が中心になり成年後見人制度に関する講座が始まったが、希望される後見の対象が高齢者が中心になっていると感じる。障害者の後見は期間が長く、配慮も必要となることから、障害に理解がないと難しいためなり手が少ない。もっと障害者に対する成年後見人制度が普及するよう支援をお願いしたい。

参加者

- ・ 社会福祉協議会の成年後見人制度の研修に申し込んだが、抽選の結果受講できなかった。私はファイナンシャルプランナーの資格を持っており、その知識を活かして成年後見人制度に協力ができると思う。社会福祉協議会の講座の受講者は抽選でなく実際に働ける人を対象にしてほしい。

市長

- ・ 信号機についてはLED化が進められているところであり、駅周辺の信号機については、弱視の人や高齢者にも見えやすいLEDにしていきたい。

社会福祉課長

- ・ 歩行時間延長信号機用小型送信機は日常生活用具となっているが、確認したところ対応している信号機は現在生産が中止になったと聞いている。日常生活用具と信号機の関係については厚生労働省に確認してみたい。

市長

- ・ 中学生の教育のなかで、障害を持つ人と中学生が触れ合う機会を作っているが、万が一自分が病気にかかった時の対処など、知識として学ぶ機会は大切だと思う。教育委員会と相談していきたい。
- ・ 障害の専門分野は、精神や身体など各分野で細分化しており、事例も複雑なことから現場では専門外のことについては対応できないことがあるかもしれない。しかし、現場で支援を必要とする方のシグナルを受け止めたら、ケアマネジャーや社会福祉士などある程度の知識を持つ人が、支援できる専門の方につないでいくことが大切であると思っている。福祉に携わる人に知識を身に付けていただくようお願いしていきたい。市民の方に対しても、学習の機会を提供されていることが大切であり、

考えていきたい。

- アパートの除雪については、アパートの管理会社に市から指導するなど是可以。市の施設については、移動がしやすい状況を作るよう改善していきたい。既存の雪おろしの制度は、高齢者と障害者を対象にしており、困っている方が利用できるようにしていきたい。
- 成年後見制度の講座の、内容は高齢者に限らず障害についての内容も含んでおり、今後も人材育成に努めていきたい。成年後見制度の講座定員を増やすことも含め、後見人の人材を育成していきたい。

以上